

地域科学技術の振興に向けて当面取り組むべき事項等について（案）

平成20年 月 地域科学技術施策推進委員会提言

知的クラスター創成事業や都市エリア産学官連携促進事業エリア等の実施により、地域における産学官連携のネットワーク形成や、研究開発成果の事業化等一定の成果を上げている。しかしながら、地域イノベーションシステムの自立化という点では、まだ多くの地域が課題を抱えている。

⇒地域科学技術振興施策をより効果的に地域の活性化に資するものとする必要がある

当面取り組むべき事項等について

1. 長期的な視野と戦略に基づいた、地域クラスター形成等に向けた地域における持続的な取組の促進

○地域における長期的な視野と戦略に基づいた取組を促すため、知的クラスター創成事業等の事業終了後においても、各地域のニーズに応じて個別の支援を行う必要がある。

2. 各地域が主体的に策定する構想・計画への柔軟な対応

○地域の多様性を踏まえ、定型的・各地域一律の施策ではなく、地域が自らの手で策定する構想に柔軟に対応した施策を講じる必要がある。

3. 地域イノベーションの構想の策定やその実現に必要な優れた人材の育成等への支援

○地域クラスター形成に向けた準備段階での取組を支援するため、地域構想の企画・立案やマネジメント体制の整備等に主眼を置いた支援を行うことが望ましい。

4. 戦略的な地域間連携やクラスターのグローバル展開の促進

○地域の競争力を強化するため、地域内に不足するリソースを積極的に他地域との連携により補完するといった戦略的な連携を促進することが必要である。

5. コーディネータ人材やマネジメント人材の育成等に向けた取組の強化

○地域における産学官連携の推進のため、地域におけるコーディネータ人材の養成やネットワーク形成等の取組を行うことが重要である。

6. 経済産業省等をはじめとした関係府省との連携の一層の強化

○様々な府省が展開している地域科学技術振興施策を、地域にとって使い勝手が良く、施策の相乗効果が発揮されるよう、施策の実施に当たって各府省が相互に連携をとることが重要である。

7. 大学における地域貢献活動の推進

○地域の知の拠点である大学には、新技術シーズの創出、地域ニーズに対応した人材の養成等、地域への貢献が期待されていることから、支援の仕組み作りや体制整備への取組等を促すことが必要である。

8. 成功・失敗事例やマネジメントに係る課題等を共有できる仕組み作り、情報収集・発信等の充実

○各地域における地域クラスター形成や産学官連携に係る活動のより効果的・効率的な展開のため、各地域の成功・失敗事例の収集・分析等、情報やノウハウの共有化を図ることが必要である。